

静岡県
御前崎市



朝比奈地区
学び歩き
マップ



文化財HP



所在地地図

朝比奈の由来

朝比奈(朝夷)という地名は奈良時代に書かれた奈良東大寺の東南院古文書の「刑部広浜優婆塞貢進文」(770年(神護景雲4年))に見られ、御前崎市の地名としては最も古い資料に記載されている。

また、平安時代中期(931~938年(承平年間))に作られた漢和辞典・百科事典である「和名類聚抄」にも、城飼郡11郷の一つとして新野とともに「朝夷」の地名をみることができる。

奈良時代の平城宮から出土した多量の木簡の中に、「朝夷郷石部衣万呂五斗」と書かれたものがある。これは石部衣万呂に五斗の年貢を賦課したものであろうとされるが、この朝夷郷は御前崎市朝比奈か益頭郡朝夷郷(現 藤枝市)と考えられる。

お問い合わせ

■ 御前崎市役所 社会教育課
御前崎市池新田 5585
TEL.0537-29-8735

■ 朝比奈地区センター
御前崎市上朝比奈 2681-1
TEL.0537-86-3365

2023年3月現在 第3版

1 河原崎家の長屋門

MAP D-3



先祖は京都より朝比奈に来たと伝えられる。江戸時代から庄屋を務め、朝比奈では珍しい長屋門を構えていた。河原崎平七氏が門を改築しようとしたとき、相良藩主・田沼意次が鏡柱を贈り、その一部が残っている。

市内で唯一残る長屋門である。

2 玄翁堂(げんのうどう)の木造十一面観音菩薩像

MAP D-3



御前崎市指定文化財(第18号)

玄翁堂の名前は、玄翁(玄応)和尚がこのお堂に身を寄せて、托鉢して歩いたとの言い伝えに由来する。
堂内に十一面観音菩薩立像と座像があり、立像は玉眼を施し、面相、衣文の彫法は丁寧で、室町時代の作と思われる。座像は、江戸時代の標準的の作例である。
立像と厨子は1998~1999年(平成10~11年)に修復された。

3 豊受神社(とようけじんじゃ)

MAP C-4



1711年(正徳元年)に勧請された神社で、1879年(明治12年)には旧朝比奈村の村社となっている。
境内には1969年(昭和44年)に県天然記念物に指定された「豊受神社の大松」があったが、松くい虫の侵す処となり、やむなく平成5年に伐採された。

4 あさひな様

MAP C-4



豊受神社西側の墓境内にある宝篋印塔で、朝夷三郎義秀または朝夷但馬守の墓とも伝えられている。
宝篋印塔は関東形式で法輪の上部と塔身が欠けている。基礎部分に銘がないため年代は不明であるが、古い形式を残し、比較的保存状態も良い。市内では最大級のものである。

5 旧朝比奈小学校の黒松

MAP C-4



御前崎市指定天然記念物(第28号)

樹齢は160年以上と推定され、1889年(明治22年)、旧朝比奈小学校(現 朝比奈中央広場)が設置され、この頃に若木を植えたのか、近隣から移植したと考えられる。
昭和52年に朝比奈小学校が閉校するまで88年の間、地区の人々が深い愛着を持っていたため、閉校後も広場の一角に残された。
市内に生育するクロマツの中で最大級に属するもので、樹木の由来も旧朝比奈小学校の歴史と深い関わりを有するものと認められ、旧朝比奈小学校の景観を伝えている点からも貴重な樹木と判断される。

6 六面石幢六地藏(ろくめんせきどうろくじぞう)

MAP B-4



石幢とは供養のために作られた石製の塔の一種。南北朝時代ころから六面に地藏を刻む「六地藏石幢」が多く作られるようになった。
本地蔵は下から基礎・請花・幢身・笠・宝珠の5部材から成る単制であるが、宝珠を欠いている。基礎に施された蓮華紋のレリーフから、江戸時代中期に造立されたと考えられる。

7 岩地正八幡神社本殿・神像

MAP B-3



御前崎市指定文化財(神像)(本殿)



本殿は間口1間、奥行1間の一間社流造りで、屋根はこけら葺きである。最上部に土台を回して、その上に建物は立つ。棟札によると1708年(宝永5年)本殿が造営され、その後の1770年(明和7年)に屋根吹き替えに伴って大規模に修理したことも想定される。
神像は総高37.3cmの衣冠束帯姿で、箱の裏書に1839年(天保10年)という年号があることから、そのころの作と考えられる。伊豆山神社などに何体か存在するが、県の中部以西では神社に神像があることは非常に珍しい。江戸時代末期の作で、県内における数少ない神像の作例として貴重なものである。

8 大日寺の大日如来座像(だいにちによらいごぞう)

MAP B-3



御前崎市指定文化財(第19号)

大日寺は現在廃寺となっているが、かつては多くの坊(王城坊・橋部など)をもった真言宗の大寺であったといわれる。
大日如来座像は大日寺の本尊で、現在は岩地地区の大日堂に安置されている。通常、金剛界大日如来は高髻を結った菩薩形であるが、本像のように螺髻の如来形で智拳印を結ぶものは大変珍しい。

9 若一王子神社(にやくいちおうじんじゃ)

MAP B-4



戦国時代、高天神城をめぐる戦乱において武田の兵に追われた徳川家康が、この神社の前にある王子の松の穴に隠れ命拾いをしたという言い伝えがある。百石を拝し、その証が神社の祠にあったが、放火により焼失し、神社も廃社となった。神社は1655年(明暦元年)に再興された。「じゃくいちおうじんじゃ」と呼ぶ人もいる。松は1987年(昭和62年)に枯死した。

10 旧妙音庵薬師堂と薬師三尊・十二神将(きやうおんあんやくしどうとやくしさんぞん・じゅうにしんじょう)

MAP C-4



御前崎市指定文化財(第12号)

木造平屋建、宝形造棧瓦葺の1間堂。軒は二軒で、正面だけを放射状の扇垂木にして、三方を平行垂木にしている。虹梁(綱領)や斗拱(組物)、彫刻などの工法から江戸末期の様式がうかがえる。
本尊の薬師如来坐像は金泥塗りで座高8cmの一本造り。1680年(延宝8年)海中より拾い上げられたものと伝えられる。脇侍の日光と月光菩薩立像も江戸時代の作。
十二神将は薬師如来に従う眷属で、辰神が龍神、支神が仁王に近い形式のほかは甲冑に全身を守られた神将形である。2022年(令和4年)9月に12月年ぶりに開帳し、次の御開帳は2034年(令和16年)9月の予定である。

11 北原の地蔵堂と観音堂

MAP D-2



北原観音



小泉原六地藏



小泉原延命地藏

地区内には地藏尊が点在している。このうち、小泉原六地藏は1724年(享保9年)から祀られている。観音様を主体として六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天道)のそれぞれにあって衆生の苦しみを救う地藏菩薩を言う。
小泉原延命地藏は小さな石仏である。1867年(慶応3年)小泉原の重右工門の婆さんとその娘が賊に入れられ殺され、延命地藏尊を祀りお堂を建てて供養をした。1975年(昭和50年)に、これを改築した。
北原観音堂の仏像には「西国24番中山」と記され、台座に「〇右衛門」と記されている。小さい石仏は馬頭観音で、「天保十年四月三日」とある。

12 富士山禅定供養塔(ふじさんぜんじょうくようとう)

MAP B-2



富士山などの霊山に登って修行することなど「禪定」と呼ぶ。朝比奈原・宮ヶ谷原のはずれに「富士山禅定供養塔」の石碑がある。
朝比奈原の住民は、富士山が見える浅間神社や富士供養を祀っていたことがわかる。

● オペラ歌手 三浦環(みうらたまき)とその父の故郷



三浦環は日本人初の国際的オペラ歌手として「蝶々夫人」出演2000回の金字塔を立て、全米で「マダムバタフライ」の名は響き渡った音楽家である。1884年(明治17年)東京生まれであるが、本籍は下朝比奈村になっていた。
父・柴田熊太郎(孟甫)氏は下朝比奈字宇洞出身である。法律を学ぶため早くから東京に出て第1回公証人試験に合格して活躍した。

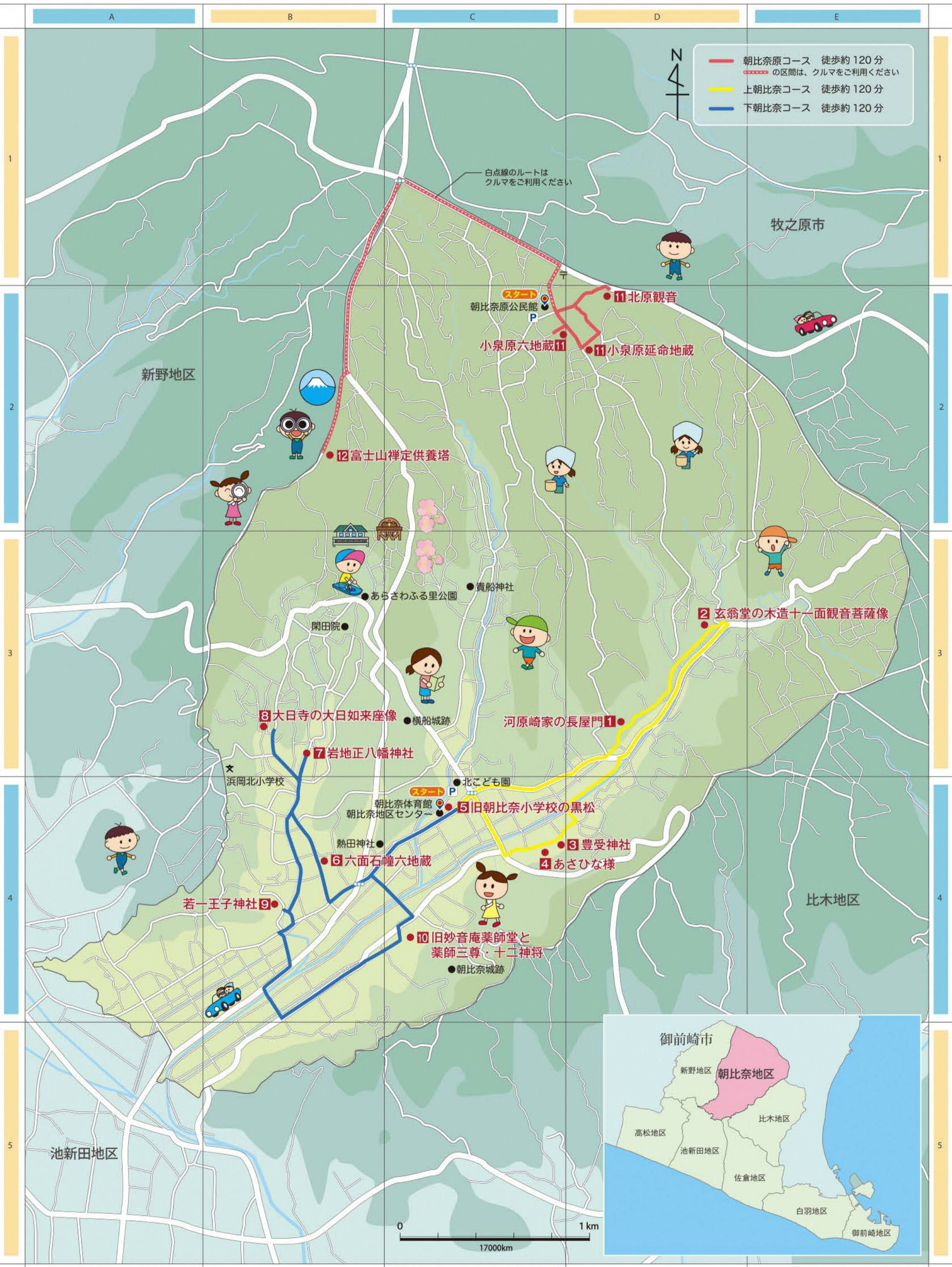
● 青い目の人形 マーベル・ワレンちゃん



御前崎市指定有形文化財

1927年(昭和2年)、日米親善を担うために米国から全国に12739体の西洋人形が送られ、マーベル・ワレンと名付けられた一体が朝比奈小学校にも送られた。ポケットにはパスポート(船の切符)が入っていた。
太平洋戦争により、国内の人形は「敵性人形」として処分されたが、当時の用務員が「目があるものには命がある」と隠し持ち今に残る。戦争の悲惨さや命の尊さ伝え平和を受け継ぐ貴重な人形である。
2008年(平成20年)市指定有形文化財となり、現在は市立図書館に保管されている。

静岡県御前崎市 朝比奈地区学び歩きマップ



- 朝比奈原コース 徒歩約 120分
- の区間は、クルマをご利用ください
- 上朝比奈コース 徒歩約 120分
- 下朝比奈コース 徒歩約 120分

白点線のルートはクルマをご利用ください



牧之原市

新野地区

比木地区

池新田地区

